

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

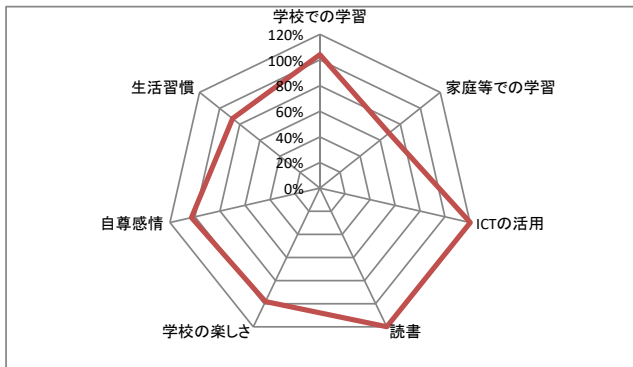
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	○「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」で全国を上回っている。 ○「読むこと」では、全国の平均正答率を下回っている。児童質問紙の読書の時間が少ないことも同時に挙げられる。	上回っている
算数	○全体的に平均正答率は、全国を下回っている。○領域に関係なく、短答式の問題の正答率が低い。 ○「数と計算」の一部と「変化と関係」領域の正答率が特に低い。「数と計算」領域では、最小公倍数を求める問題以外では正答率が高く、乗法及び除法の計算は解答することができている。	下回っている
理科	○全体的に平均正答率は、全国を下回っている。 ○「地球」を柱とする領域の正答率が特に低い。中でも、観察で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつ問題に課題が見られた。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○全ての教科の授業の中で、タブレットを使用する機会を設け、活用することができている。今後も積極的にタブレットを取り入れていく。
○自分にはよいところがあると思う児童や人の役に立つ人間になりたいと思っている児童の割合が高く、様々な行事でも友達と協力し、率先して取り組む児童が多い。
○読書が好きな児童は多いが、家庭で読書をする児童は少ない。また、家庭学習の時間が非常に少なく、家庭で自主的に学習する態度を育てていく必要がある。学校からの課題で分からないときは、家族に聞くと答えた児童が多く、家庭とも連携して取組を進めていく。
○全国平均に比べ、朝食を毎日食べている児童の割合が少ないため、食育の取組を進め、心身ともに健康な児童の育成に努めていく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 読む力を身に付けるためにも、図書の時間の確保、各教科等の学習における図書室の活用は引き続き行っていき、読書習慣の定着を図る。
- 既習事項が定着できていない教科や単元は、宿題や朝自習など活用し復習の機会を設ける。
- 家庭学習の在り方を見直し、学年に応じた時間・内容の家庭学習が行われるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 児童の家庭での学習・読書習慣の定着に向け、引き続き学校だよりやHP等を通して保護者に理解と協力を仰ぎ、連携して取り組んでいく。
- 栄養教諭を中心に食育週間や食育の取組を充実させ、朝食摂取率を高めるとともに、規則正しい生活習慣を身に付けさせていく。
- 地域の施設やまちづくり協議会と協力、連携し、教育活動の推進に努める。